

# えりも町における小鳥類の秋の渡り調査 (3)

村上速雄 1)

## 1. 調査目的

鳥類標識調査の目的は、足環によって鳥類を個体識別し、再捕獲や観察によって渡りや移動、寿命や繁殖開始年齢などの生態を解明することにある。また、観察では識別が困難な種や潜行性、夜行性のため観察しづらい鳥種を捕獲することも多く、地域の鳥相を把握するうえで役立つことが多い。こうした放鳥や再捕獲の記録は、鳥類を保護・管理するうえでの基礎資料となる。

今回も前回(2006 村上)に引き続き、えりも町本町に近い歌別コロップ川(42° 00' N, 143° 10' E)で2006年及び2007年に9月から10月にかけてかすみ網を用いた標識調査を行った。調査概略および結果をそれぞれ報告する。なお鳥類標識調査は環境省の許可(許可証番号 2006 年度 第 02-0227 号, 2007 年度 第 02-0302 号)を受けて行った。

## 2. えりも町歌別コロップ川での調査

### 2.1 2006年の調査

#### 2.1.1 調査概要

2006年は9月15日から10月29日までの間に27日間行った。コロップ川の調査地は前回行った2005年と同じ場所で植生は変わらず牧草地跡で植生は主にヨモギ・イネ科草本からなる。また、牧草地の両側に南北にははる広葉樹の尾根がありその林縁に樹高1.5~2.0mのノリウツギの群落がある。

調査には前回と同様にノリウツギの群落を囲むように30メッシュ×12mのかすみ網を3枚、36メッシュ×12mのかすみ網を1~3枚、また草丈2mほどのヨモギ、ヨシの草地の中に36メッシュ×12mのか

すみ網を最大2枚用いた。鳥を誘引するためにテープレコーダー、MP3再生機とポータブルアンプスピーカーを組み合わせたもの2台、カーステレオと15Wスピーカー2台を使用した。9月から10月上旬までは、夜明け前からノゴマ、クロツグミ、夜明け後からアオジ、ビンズイなど、また日没後はコノハズクの囀りを流した。10月中旬以降は夜明け前からノゴマ、クロツグミ、アカハラ、夜明け後からアオジ、ビンズイ、カシラダカ、ベニマシコなどの囀りを流した。

#### 2.1.2 調査結果

調査の結果、43種2,044羽(新放鳥2,036羽、再捕獲8羽)を放鳥した。日別の放鳥数を表1に示した。優占種はアオジで1,089羽放鳥し全体の53.5%を占め、10月16と27日に放鳥数の最大値を記録した。次にノゴマで362羽放鳥し17.7%を占めた。本種は9月16日から捕獲され始め、10月13日に渡りの山を迎え、10月27日にはまったく捕れなくなった。次いでベニマシコ127羽(6.2%)で10月14日から捕獲され始めたが10月29日の調査終了日にはまだ捕獲されており、その後の動向は不明であった。次いでビンズイ93羽(4.5%)で9月17日から捕獲され始め10月4日ごろに渡りの山を迎え10月28日に捕れなくなった。次いでカシラダカ87羽(4.3%)で10月16日から捕獲され始めたが10月29日の調査終了日にはまだ捕獲されており、その後の動向は不明であった。

それ以外の種は捕獲数が少なかったため動向を把握するに至らなかった。



### 2.1.3 回収鳥

回収記録はコノハズクで1例、ノゴマで1例、アオジで5例が得られた。

コノハズクは10月3日に本調査地で放鳥されたものが10月15日に愛知県額田郡幸田町で回収された。12日間で約948km移動した。本種の愛知県での回収は初記録であった。

ノゴマは2005年10月26日に本調査地で放鳥されたものが2005年11月17日に青森県八戸市で回収された。22日間で約220km移動した。本種の青森県での回収は初記録であった。

アオジは根室市で放鳥された個体が3例あった。その1例は2005年10月6日に放鳥されたものが10月14日に回収された。1年8日後の回収であった。2例目は2006年9月30日に放鳥されたものが10月27日に回収された。27日後の回収であった。3例目は2006年10月13日に放鳥されたものが10月27日に回収された。15日後の回収であった。根室市以外の地域から2例ありその1例は2006年10月6日に斜里町で放鳥されたものが10月27日に回収された。22日後の回収であった。2例目は2006年10月19日に標津町で放鳥されたものが10月27日に回収された。9日後の回収であった。斜里町、標津町からの短期回収は初記録であった。

## 2.2 2007年の調査

### 2.2.1 調査概略

2007年は9月21日から10月24日までの間に20日間行った。調査地は2006年と同じ場所で植生は前年と変わらなかった。

調査には前回と同様にノリウツギの群落を囲むように30メッシュ×12mのかすみ網を3枚、36メッシュ×12mのかすみ網を1～4枚用い、また草丈2mほどのヨモギ、ヨシの草地の中に36メッシュ×12mのかすみ網を最大3枚用いた。鳥を誘引するため、テープレコーダー、MP3再生機をポータブル

アンプスピーカーに組み合わせたもの3台とカーステレオと15Wスピーカー2台を使用し、9月から10月上旬までは夜明け前からノゴマ、クロツグミ、アカハラを、夜明け後からシマセンニュウ、ビンズイを、日没後はコノハズクの囀りを流した。10月上旬から10月下旬までは夜明け前からノゴマ、クロツグミ、アカハラ、夜明け後からビンズイ、カシラダカ、ベニマシコの囀りを流した。

### 2.2.2 調査結果

調査の結果33種1,842羽(新放鳥1,823羽,再捕獲19羽)を放鳥した。日別の放鳥数は表2に示した。優占種はアオジで949羽を放鳥し、全体の52.1%を占めた。10月10日、11日、19日、24日に100羽以上放鳥し19日に最大値を記録した。次にノゴマで274羽(15.0%)を放鳥したが、今年は音声再生機の不具合があったため渡りの動向を示す最大値は不明であった。

次いでビンズイ123羽(6.7%)で9月21日から捕獲され始め9月25日と10月2日に渡りの山を迎え10月19日以後、捕れなくなった。次いでカシラダカ116羽(6.3%)で10月7日から捕獲され始めたが10月24日の調査終了日にはまだ捕獲されており、その後の動向は不明であった。次いでベニマシコ94羽(5.2%)で10月10日から捕獲され始めたが10月24日の調査終了日にはまだ捕獲されており、その後の動向は不明であった。

それ以外の種は捕獲数が少なかったため動向が不明であった。

### 2.2.3 回収鳥

回収記録はアオジで4例が得られた。1例は2006年10月2日に帯広市で放鳥されたものが10月12日に回収された。1年10日後の回収であった。2例目は2007年10月5日に根室市で放鳥されたものが10月18日に回収された。13日間で約240km移

表2. 2007年えりも町歌別コロップ川の日別放鳥

種名/学名	2007/09/21~10/24(20日間)																								合計	
	9/21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	10/1	2	3~5	6	7	8~9	10	11	12	13	14~17	18	19	20		21~23
天候	晴/-	曇/-	晴/快晴	快晴/晴	曇/晴	晴/快晴	曇/-	晴	-/晴	晴/快晴	晴/快晴	晴/-	-	晴/晴	晴/晴	快晴/-	快晴/曇	曇/晴	曇/晴	晴/強風	晴/強風	晴/強風	曇/-	曇/-	曇/-	曇/-
新放鳥数	16	18	37	93	22	43	54	-	2	25	140	102	-	103	102	-	201	215	161	2	-	81	264	41	-	203
再捕獲数	6	5	8	12	5	9	7	-	1	12	13	-	-	13	12	-	14	15	13	2	-	12	13	9	-	10
種名/学名	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ	カウチ
<i>Gallinago gallinago</i>																										
<i>Otus scops</i>																										
<i>Otus longii</i>																										
<i>Opus torquata</i>																										
<i>Dendrocopos leucophaea</i>																										
<i>Arctophaga lagopus</i>																										
<i>Lanius lucophanes</i>																										
<i>Lucania collina</i>																										
<i>Sarcicola torquata</i>																										
<i>Turdus cardis</i>																										
<i>Turdus chrysolaus</i>																										
<i>Turdus pallidus</i>																										
<i>Turdus obscurus</i>																										
<i>Cettia squamiceps</i>																										
<i>Cettia diophana</i>																										
<i>Locustella coхtensis</i>																										
<i>Acrocephalus bistrigatus</i>																										
<i>Phylloscopus borealis</i>																										
<i>Ficedula narsisina</i>																										
<i>Cyanopitta cyanomelana</i>																										
<i>Parus palustris</i>																										
<i>Parus montanus</i>																										
<i>Parus major</i>																										
<i>Sitta europaea</i>																										
<i>Zosterops japonica</i>																										
<i>Emberiza cioides</i>																										
<i>Emberiza fucata</i>																										
<i>Emberiza pusilla</i>																										
<i>Emberiza rustica</i>																										
<i>Emberiza elegans</i>																										
<i>Emberiza variabilis</i>																										
<i>Emberiza spodocephala</i>																										
<i>Uragus sibiricus</i>																										

動した。3例目は2007年10月12日に釧路市阿寒町で放鳥されたものが10月18日に回収された。6日間で約160km移動した。4例目は2002年10月15日に標津町で放鳥されたものが10月24日に回収された。5年9日間後の回収であった。

#### 考察

2年間の本調査地での回収記録はコノハズクで1例、ノゴマで1例、アオジ9例であった。アオジは9例中4例が根室市、2例が標津町、1例が斜里町、1例が阿寒町で放鳥された個体であったため、道東地方のアオジの一部はえりも町を通過していることを示していると考えられた。

注目に値する放鳥例としてコホオアカ(図1)があげられる。2006年2007年ともに確認された。えりも町付近での確認は今回初めてである。



図1. コホオアカ 性不明幼鳥 2006年9月18日撮影

次に2002年から2007年までの6年間に毎年100羽近く放鳥したアオジ、ノゴマ、ビンズイ、カシラダカ、ベニマシコの5種類の動向について考察した。しかし、本調査では網の枚数や位置を変えたり、誘引音声をかえたりしたこと、また、この地域は強い風がよく吹くため風向きにより鳥の動きが止まったり、調査を中断したことがある。このため放鳥数が少ない種類では正確に鳥の動向を述べることはできないが、各種、各年のデータから渡りの山について推測した。

#### アオジ

誘引の音声は使用したりしなかったりしたため正確な動向は把握できなかったが、概ね捕獲され始めるのは10月1日ころ、渡りの山を迎えるのは10月15日ころ、捕獲されなくなるのは10月30日ころであった。

#### ノゴマ

2004年に放鳥数が突然増加したが、これは誘引音声を変えたことと、音声を用いる時間帯を変えたことが影響したと考えられた。しかし途中リングが不足したり、音声装置が故障し音声が流れていなかったりしたため鳥の動向は正確に把握できなかった。捕獲され始めるのは9月20日ころ、捕獲されなくなるのは10月15日ころで渡りの山は不明であった。

#### ビンズイ

2006年に放鳥数が増加したがこれは誘引音声を使用したこと、網の張り方を変えたことと調査を9月中旬から始め調査期間を長期に行ったことが影響したと考えられた。捕獲され始めるのは9月10日ころ、捕獲されなくなるのは10月20日ころであった。顕著な渡りの山はみられなかった。

#### カシラダカ

2007年に放鳥数が突然増加したが、これは誘引音声を使用したことが影響したと考えられた。捕獲され始めるのは10月10日ころであったが、渡りの山を迎える時期と捕獲されなくなる時期は不明であった。

#### ベニマシコ

2007年に放鳥数が突然増加したが、これは誘引音声を使用したことが影響したと考えられた。捕獲され始めるのは10月10日ころであったが、渡りの山を迎える時期と捕獲されなくなる時期は不明であった。

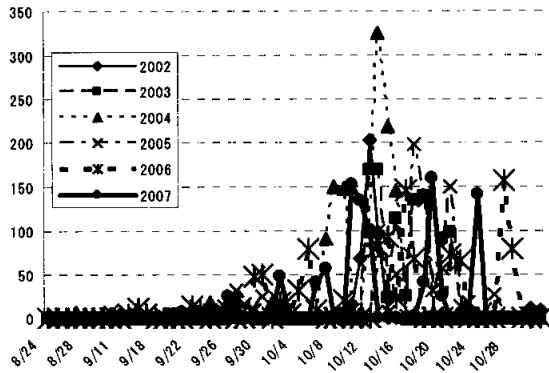


図2. アオジの2002年から2007年までの日別放鳥数

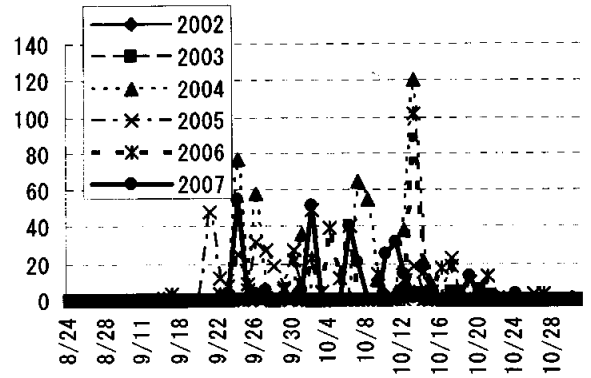


図3. ノゴマの2002年から2007年までの日別放鳥数

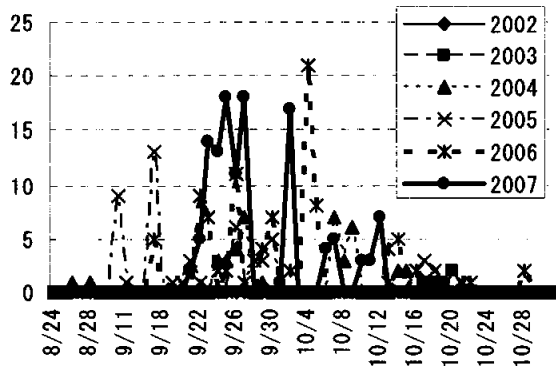


図4. ビンズイの2002年から2007年までの日別放鳥数

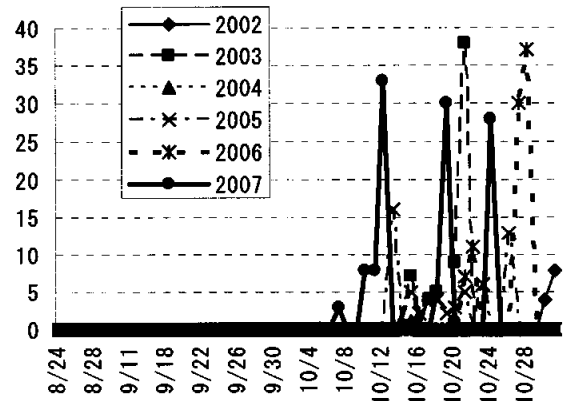


図5. カシラダカの2002年から  
2007年までの日別放鳥数

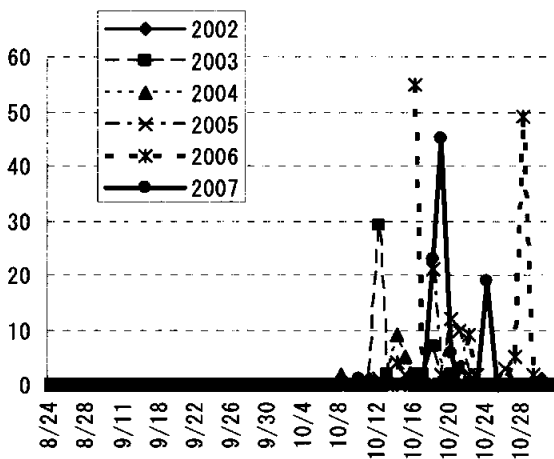


図6. ベニマシコの2002年から  
2007年までの日別放鳥数

今後の課題として種類によって渡る時期が概ね解明されてきたので、調査方法を工夫しさらに各種の渡り時期を解明していく予定である。

### 3. 回収記録の解析

本調査において標識鳥の回収記録が 2001 年から 2007 年に 25 例得られた。なお白地図には発表した記録 (2004, 2006 村上) も図示し、また 04 年、06 年のえりも紀要発表後に記録があったものもここで記載する。

#### 3.1 アオジ *Emberiza spodocephala*

アオジの回収は 21 例あり、全て 50km 以上離れた回収であった。ここでは例数が多いため放鳥後 6 ヶ月未満の短期回収と 6 ヶ月以上の長期回収に分けて図示した。

#### 3.1.1 アオジ *Emberiza spodocephala* の長期回収記録

長期回収記録は 9 例あり、うち 6 例が道東地方放鳥であった。またこれらの個体は主に 10 月 15 日までに捕獲され道東地方でその年に放鳥された個体より 2~7 日早くえりもで捕獲された。

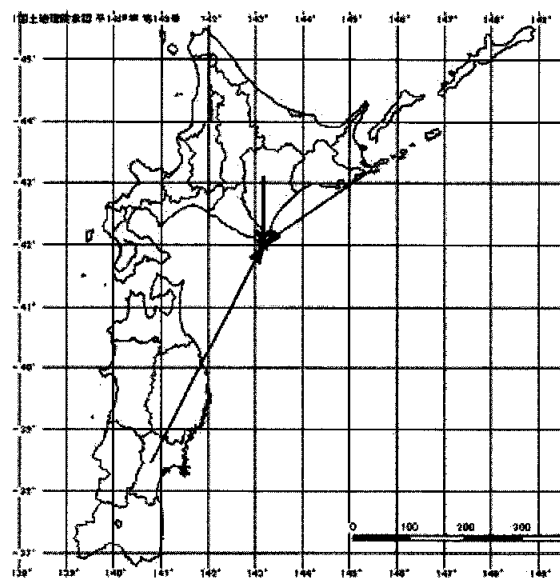


図 7. アオジ *Emberiza spodocephala* の長期回収記録

- 2005. 10. 06 F J 北海道根室市 → 2006. 10. 14 F A 北海道えりも町 (373 日)
- 2006. 10. 02 M J 北海道帯広市 → 2007. 10. 12 M A 北海道えりも町 (355 日)
- 2002. 10. 15 M J 北海道標津町 → 2007. 10. 24 M A 北海道えりも町 (1835 日)

### 3.1.2 アオジ *Emberiza spodocephala* の短期回収記録

短期回収記録は12例あり、うち10例が道東地方放鳥であった。道東地方で放鳥され、えりもで再捕獲された個体は主に10月20日以降に捕獲され、最短6日間、最長27日間、平均17.8日間でえりも町に到達した。

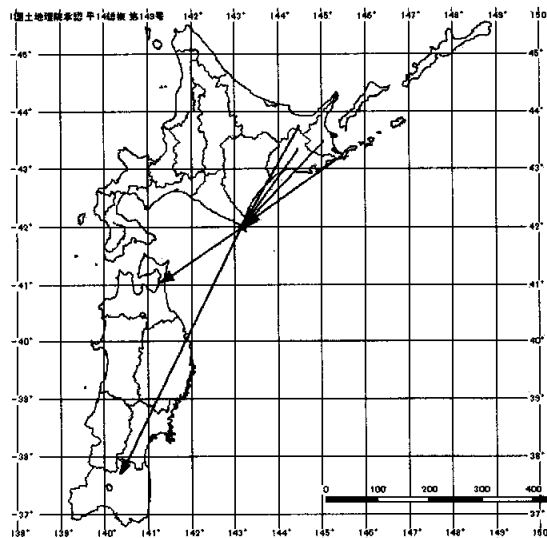


図8. アオジ *Emberiza spodocephala* の短期回収記録

- 2006. 10. 16 M J 北海道斜里町 → 2006. 10. 27 M J 北海道えりも町 (21日)
- 2006. 10. 19 U J 北海道標津町 → 2006. 10. 27 F? J 北海道えりも町 (8日)
- 2006. 10. 13 M J 北海道根室市 → 2006. 10. 27 M J 北海道えりも町 (14日)
- 2006. 09. 30 M J 北海道根室市 → 2006. 10. 27 M J 北海道えりも町 (27日)
- 2007. 10. 05 F 北海道根室市 → 2007. 10. 18 F A 北海道えりも町 (13日)
- 2007. 10. 12 f J 北海道阿寒町 → 2007. 10. 18 F J 北海道えりも町 (6日)

### 3.2 ノゴマ *Erithacus calliope* の回収記録

ノゴマの回収は2例あり、全て6ヶ月未満の短期で50km以上離れた回収であった。

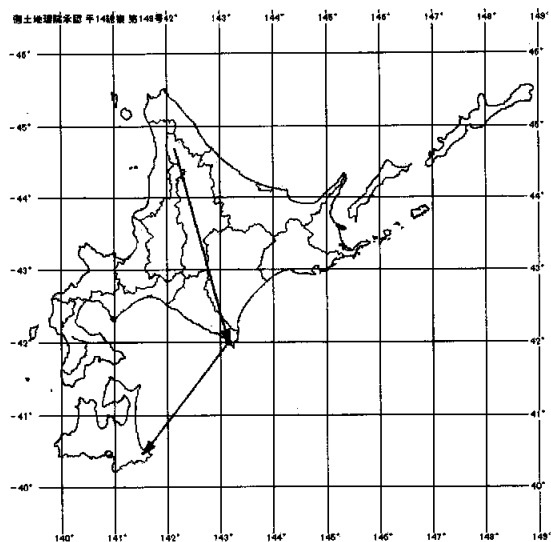


図9. ノゴマ *Erithacus calliope* の回収記録

- 2004. 10. 06 M J 北海道音威子府村 → 2004. 10. 13 M J 北海道えりも町 (7日)
- 2005. 10. 26 F J 北海道えりも町 → 2005. 11. 17 F J 青森県八戸市 (22日)



3.3 コノハズク *Otus scops* とコヨシキリ  
*Acrocephalus bistrigiceps* の回収記録

両種の回収は各1例あり、全て6ヶ月未満の短期で本州での回収であった。

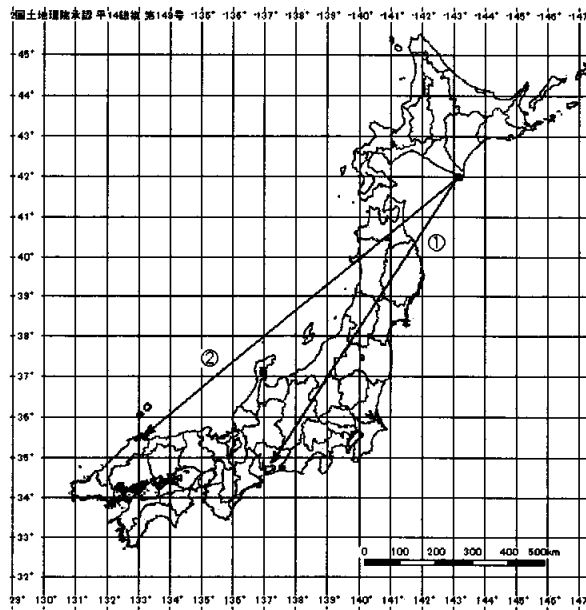


図 10. ①コノハズク *Otus scops* , ②コヨシキリ  
*Acrocephalus bistrigiceps* の回収記録

① コノハズク

2006. 10. 03 U J 北海道えりも町 → 2006. 10. 15 U U  
愛知県幸田町 (40 日)

② コヨシキリ

2005. 09. 22 U J 北海道えりも町 → 2005. 10. 07 U J  
鳥取県米子市(15 日)

4. 謝辞

本調査に多数の助言をしていただいた山階鳥類研究所の佐藤文男氏、本調査地にて協力していただいたえりも町郷土資料館の中岡利泰氏、襟裳岬『風の館』の石川慎也氏、また花田行博氏にここで深く感謝申し上げます。

5. 引用文献

山階鳥類研究所 (1994) 鳥類観測ステーション報告書. p 98~99. p. 179.

山階鳥類研究所 (1995) 鳥類観測ステーション報告書. p 49~51. p 131~135. p 203.

山階鳥類研究所 (1996) 鳥類標識調査報告書. p 27~29. p 158~163. p 211.

山階鳥類研究所 (1997) 鳥類標識調査報告書. p 28~29. p 64~66. p 213.

山階鳥類研究所 (1998) 鳥類標識調査報告書 p 42~49. p 59~64. p 198.

山階鳥類研究所 (1999) 鳥類標識調査報告書 p 44~54. p 207

山階鳥類研究所 (2003) 鳥類標識調査報告書 p 8. p 66.

山階鳥類研究所 (2004) 鳥類標識調査報告書 p 9. p 66.

山階鳥類研究所 (2005) 鳥類標識調査報告書 p 9. p 75.

日本鳥学会 (2000) 日本鳥類目録. 改定第 6 版.

藤巻裕蔵 (2000) 北海道鳥類目録. 改定第 2 版.

浦河探鳥クラブ (2001) 浦河野鳥だより. No1 ~No3.

浦河探鳥クラブ (2002) 浦河野鳥だより. No4 ~No6.

村上速雄 (2004) えりも町における秋の小鳥類の標識調査. えりも研究. 第 1 号. 21-26.

村上速雄 (2006) えりも町における秋の小鳥類の渡り調査(2). えりも研究. 第 3 号. 7-15.

中岡利泰・石川慎也・原芳明・宮本昌幸 (2007) えりも町の鳥類相. えりも研究. 第 4 号. 13-39.